

【達成状況に関する評価基準】※運営に関する計画の評価基準と同じ
A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した

【別紙1－加算配付用】

令和元年度 校長経営戦略支援予算【加算配付】実施報告書(選定校記載用)

(校園コード 591245)

※校園コードを入力してください。

学校名 大江小学校

取組に対する評価状況

学校関係者による評価実施済

※学校名は校園コードを入力すると自動で表記されます

1 配付額 **200,000** 円 → 決算額

188, 150 四

2 自校の現状・課題(※小・中学校においては、学力課題に限定)

学力においては全体的には、特に課題は見られないが、他の領域に比べて「書くこと」に関する問題において正答率が低くなる傾向がみられた。条件をもとに目的や意図に応じて内容の中心を明確にして詳しく書く問題については、児童に身につけさせたい基本的な力である。国語に限らず、書くことに重点をおいた取り組みの必要性があげられる。また、基礎・基本事項を確実なものにする必要があると考えられる。

3 年度目標(※小・中学校においては、学力向上の目標を記載すること)

小学校経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。

目標に対する達成状況(取組完了時)

達成

小学校経年調査における標準化得点は、6年104.1⇒101.1(-3.0P)、5年106.1⇒105.2(-0.9P)、4年生105.8⇒106.8(+1.0P)となり、1学年が向上、2学年が低下という結果となり、概ね目標を達成できたものと考えられる。

4 年度目標達成に向けた取組内容(予算反映するもののみ記載)

課題を見つけ、互いに意見交換する中で主体的に解決を図っていく「主体的・対話的な深い学び」を積極的に取り入れる。

令和2年1月実施の漢字検定に向けて、始業時の漢字書き取り練習や、週ごと月ごとに漢字小テストを、中間期には漢字検定模擬テストを行い、基礎基本の力を身につけようとする児童の意欲を高める。

5 年度目標に応じた事業効果を測る指標(期待する効果等)

昨年度実施した漢字検定では、全校児童での合格率は87.0%であった。今年度は昨年度以上の合格率をめざす。また、中間期に模擬テストを行い、進捗状況を測定する。

指標に対する達成状況(取組完了時)

達成

今年度の合格率は全体で71.8%となり、全体としては下回る結果となったが、学年相当級での年度比較では、小学5年生相当級6級で66.0⇒73.3(+7.3P)、小学6年生相当級73.7⇒73.0(-0.7P)となり、概ね目標を上回ることができた。

※事業効果は必ず数値目標を設定のうえ、進捗状況を測ることができる内容としてください。

6 年間スケジュール

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
取組み	漢字書き取り練習						漢字検定 書き取り練習			
効果検証				漢字検定模擬テスト（中間期）↑	↑小学校経年調査	↑検定結果受取				

【裏面に続く⇒】

取組

1

(校園コード 591245)
学校名 大江小学校

7. 取組内容・予算内訳

(1) 取組内容【施策番号 施策名】	委員会使用欄	達成 B
<p>【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取組】 ・漢字検定合格を目的とした、個々の児童に応じたきめ細かな指導と習得状況の把握</p>		
予算内訳 12-4 漢字検定受検料（準2級～10級）200,000		
期待される効果 漢字検定合格を目標に、児童の学習意欲の向上を図るとともに、国語科を中心に「読む」「書く」ための基礎学力を身につけることが効果として期待される。昨年度実施した漢字検定では、全校児童での合格率は87.0%であったが、今年度は昨年度以上の合格率をめざす。		

(2) 取組内容に対する実施スケジュール

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
取組み			漢字書き取り練習				漢字検定 書き取り練習		
効果検証				漢字検定模擬テスト（中間期）↑		↑小学校経年調査		↑検定結果受取	

(3) 取組内容に対する中間報告

- スケジュールどおり実施できている。
 スケジュールにやや遅れがあるが、取組は予定どおり実施できる見込みである。
 スケジュールに大幅な遅れが出ている。（□他責・□自責）
[大幅な遅れがある場合]理由及び対処方法(年度末到達目標の修正など)

(4) 取組内容に対する決算内訳

決算内訳 12-4 漢字検定受検料（3級～8級）188,150

※取組内容はPDCAサイクルを意識して設定してください。委員会使用欄は空欄としてください。